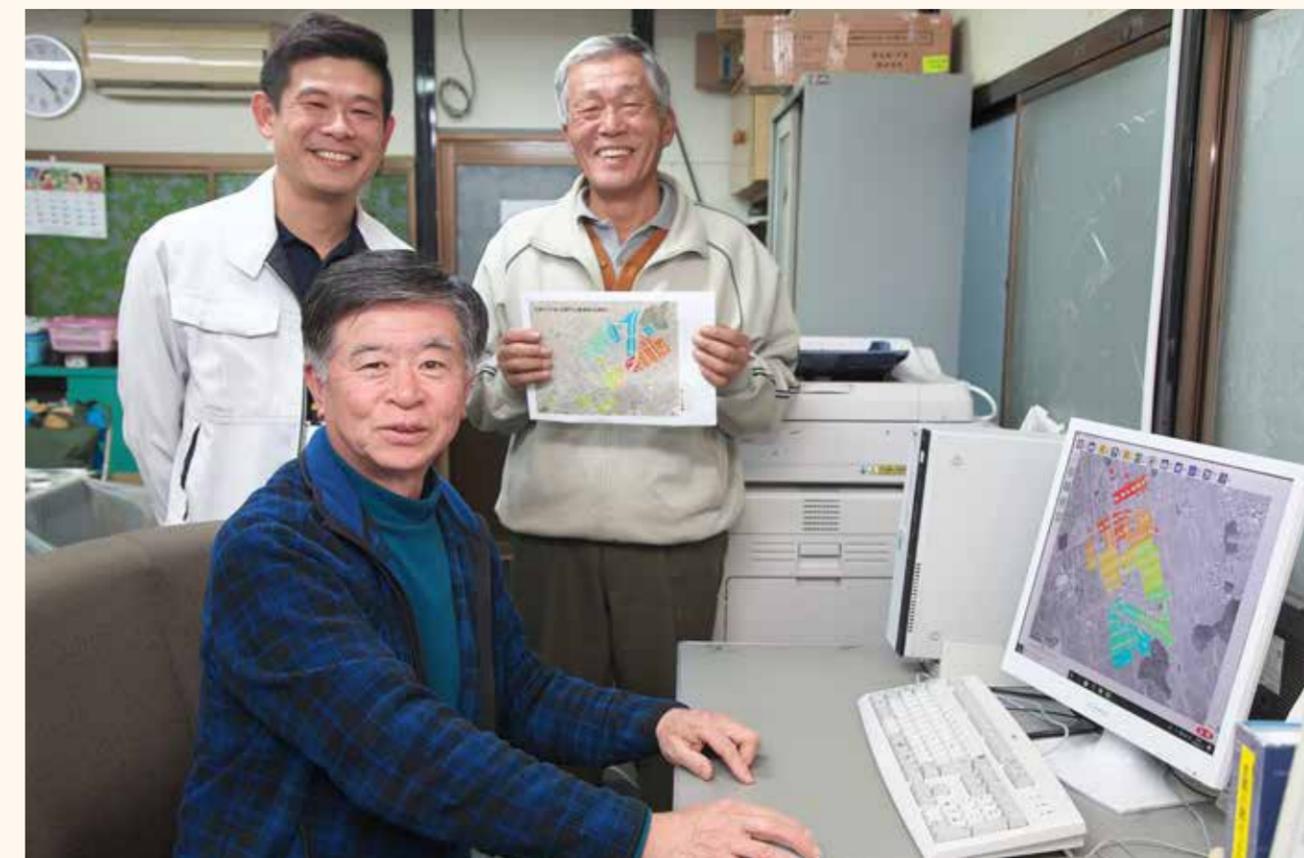


Z-GISで守り、未来につなぐみんなの農地

—— 滋賀県 農事組合法人 愛農の郷おさだ (JAグリーン近江管内)

2018年4月のサービス提供以来、6000ダウンロードを記録する「Z-GIS (Zennoh Geographic Information System)」。
TAC (地域農業の担い手に向くJA担当者) の活動においても、担い手との情報共有、作業の効率化や事業承継の提案をするさいに活躍する。TACの提案で、いち早くZ-GISを導入した集落営農法人を取材した。

阪本博文=写真 photo by Hakubun Sakamoto JA全農TAC推進課=企画協力



写真右から愛農の郷おさだの忠田組合長、高木理事、TACの小川さん

「うまくいかない部分は、相談するとすぐに対応してくれるので心強いですね。これからの農閑期に、当法人に合った使い方をさらに研究し、他の構成員とも操作を共有できるように準備を進めます」
と、高木理事。Z-GIS導入前は、白地図に蛍光マーカーペンで色を塗り、約五〇人の作業者に日々の作業指示をしてきたが、Z-GISがあれば、別の日の作業との比較も一目瞭然。さらに、現在Excel®で管理する作業履歴もひも付けできればと考えている。

TACとも連携しやすい

同法人にZ-GISを提案したJAグリーン近江営農振興課のTAC・小川吉法さんは、「TACは土地勘のない地域を担当することも多いので、Z-GISで出力した正確な地図なら、情報共有が効率化でき、より多くの時間を提案活動にかけられます。スマートフォンでも使えて、圃場での打ち合わせに便利ですね」と話す。小川さん自身も農業にZ-GISを使っており、より多くの担い手に活用してもらえるよう、提案していききたいという。農家や法人の状況に合わせて、さまざまな使い方ができるのがZ-GISの大きな魅力だ。

※Z-GISの利用料金は登録100圃場ごとに月額200円が課金される。登録2000圃場以上は月額定額4000円



愛農の郷おさだでは、圃場ごとに番号を振り、圃場には看板を立てている。Z-GIS上にも圃場番号を反映して管理

活用ポイント①

どんな項目でも記入できるExcel®で活用は無制限

Z-GISはExcel®に作付け作物や面積などの情報を入力し、それらを地図情報と結びつけて管理できるソフトウェア。必要な情報を配置した地図を自在に作れる。手作業よりも短時間ででき、更新も容易だ。次の活用例をはじめ、自由度が高いのが特長。

- 圃場地図の合筆・分筆などに応じた情報の修正
- 防除・施肥マップの作成
- 作付け計画の見える化
- 圃場ごとの作業者・作業時間の管理

活用ポイント③

デジタル化で若い世代がなじみやすい

データをクラウド上のサーバーで一括管理し、複数人で情報を共有できる。サーバーは強固なセキュリティシステムを導入し、外部からの不正アクセスによる情報漏洩を防ぐ。パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレット端末からも情報を共有でき、圃場でも利用できる。たとえば、Z-GISの地図をスマートフォンで確認しながら圃場巡回を行い、その場で生育状況を記録するといった使い方も



Z-GIS JA全農 営農管理システム

活用ポイント②

どんな人でも見やすく、むだな時間を大幅カット

地図は精細な航空写真を使い、圃場が見やすい設計になっている。印刷も可能で、最大A0サイズで印刷でき、掲示して複数人で確認しながら、作業内容などを検討・報告するのにも便利。作業受託のさいにも、実際に作業する圃場がすぐに特定でき、移動も正確、迅速にできる



地域農業を守る、最後の砦。と言われる集落営農組織。農地の情報を的確に把握し、管理することが運営の要だ。しかし、経営規模が拡大するほど、作業は煩雑になる。従来の白地図上に農地情報を手書きするといった方法では、とても追いつけない。
そこで活躍するのが、JA全農が開発した「Z-GIS」。Microsoft® Excel®に入力したさまざまな情報をコンピューター上の地図と結びつけ、わかりやすく表現できる。
米と麦・大豆計六〇haを生産する農事組合法人愛農の郷おさだ(近江八幡市)は、滋賀県内でいち早くZ-GISを導入した。パソコンのサポート期限が切れ、新たなシステムを検討しているとき、JAグリーン近江のTACがZ-GISを紹介したことがきっかけだった。同法人の高木隆哉理事はこう話す。
「新たなシステムの導入は、初期費用がネックでしたが、Z-GISは無料のトライアルで性能を試せるうえ、費用も

Z-GISの詳しい情報はこちら

<https://z-gis.net/99/>

お問い合わせはJA全農アグリ情報室まで
TEL:03-6271-8278



イラストはJA全農TAC推進課と地上編集部によるコラボキャラクター「TACマン」